

「美しい画のなかに、心ここに在りと・・・」

福岡市在住 下河辺妙子

初めて修太先生の商品に出会ったのが、東京から福岡へ住を移した時でした。福岡三越の外商の方からの紹介でした。それは「シェナの眺め」。やさしい陽射し、人の温もり、限りなく透明の空の色、平和でおだやかな色彩、人の心を癒してくれるとてもいい絵だと感嘆いたしました。今、我が家の小さなリビングに飾っておりますが、とても居心地のいいつろぎの場となりました。昨今クイック、クイックとせわしい世の中ではありますが、修太先生の作品からは、落ちつきと深い安心を私達は感じております。ひとり静かにアフタヌーンティーを飲みながら、絵を見つめておりますとティーとともに、心がゆっくりなごんでまいります。ほんとうにいい絵に出会ったと喜んでおります。



漱石の草枕の一節に「あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするがゆえに尊い」と。どうぞこれからも先生の作品のなかに、私達が生きていくための大切なものを感じさせてください。さわやかな5月の風とともに、福岡三越で、又、先生の作品にお会い出来る機会を心待ちしております。

2003・緑の風のなかで・・・。

DM作品・紹介 I

～感じる色彩と安らぎ～



「クチェリエ」20M

パリという街はすべてがキャンパスに描きたくなるようなシックで洒落た色彩に溢れていた。自分の姿をパリ街角のデザイナーのアトリエに投影し、生み出していく作品達が多くの人の手を経て世の中にデビューできる喜びを、ずっと、描き続けた・・・。

修太・詔



福岡

つつじ(久留米森林公園)



宮本武蔵の碑(小倉)

「 コーヒータイムの幸せ 」

福岡市在住 榎 信子



先生との出会いは三年前だったと思います。福岡三越のギャラリーに何気なく足を運んだのですが・・・先生の作品の色彩、そして絵を見てると、行った事もない西欧にまるで自分がそこに居る気分になり、作品と共有の時間を持てる思いが致しました。

我家にも、その時出会った一枚の絵が、何時も目の届く所に・・・仕事に行く前のコーヒータイムが幸福に感じます。

4月29日からの来福を心から楽しみにお待ちしております。



「森崎修太さんの絵は、さわやかな風に乗ってやってきた！！」

福岡市在住 廣田潤子

桜の下で春を満喫したかと思うと福岡（博多）の町は5月のどんたくに向けてあわただしく動き始めます。そんな時に友人のご夫婦から誘われて福岡三越店に足を運んだのが森崎先生の絵との出会いでしたが、早いもので丸4年が経ちました。その当時気持ちが沈んでいた私は、目の前に広がる青空・柔らかな日差しの牧場・どこまでも続く青い海・・・に心がぱっと明るくなり暖かい気持ちになってきました。先生の絵の中にはよく動物が描かれていますね。作品を眺めていると自然に笑顔になっている私は子供の頃からの大の動物好き。今はかわいい娘達（猫）4匹に囲まれ子育て？に忙しい毎日ですが、娘達と重なって見えほのぼのとした気持ちになってきます。2002年5



月、3度目の絵画展はそれまで鑑賞するだけだった私にとって記念の日になりました。大好きな海とその海を眺めている大好きな猫の後ろ姿の絵は、そのまま諦めて帰ることができず、その日からわが家で一緒に眺めています。今年のテーマは何かしら？桜の季節になるとわくわく！！先生の絵はさわやかな5月の風とともに私の心を元気にしてくれる魔法です。

2003年 春



福岡三越での桜祭！



DM作品・紹介Ⅱ



画家の視線「シリーズ Paris 「耐乏の生活」

生活苦＝画家といった図式が一般的で私も絵に描いた様な耐乏生活の日々を Paris で味わいました。私が渡仏したのが26才の時。日本から持参したお金も Paris の実に楽しい日々にあっという間に消えていったのです。親からの仕送りもなく自力で生活しなければならないのです。学校（美大）とアルバイトの日々の始まりです。皿洗いからはじまり、ありとあらゆるバイトを重ねベビーシッターまで。（ベビーシッターほど楽なバイトはない！）バイトからアパートに帰り若さという力にまかせ徹夜で描きまくる日々。金はなくとも体力はあったのです。明日食べるパン代もなくてもその時代は楽しく充実した生活でした。Parisの耐乏生活で得たもの、それは「なんとかなる！」の一言につきます。いろんな方々に助けられ、なんとかなるの精神で今日まで好きな絵を描けることは幸せな事です。感謝の気持ちを忘れずに・・・

アトリエにて
森崎 修太



「ニースの散歩道」10M

初夏の風がニースの海岸にも心地よく吹いてる頃に訪ねてみませんか？



「サトリーニ島」6F

今日という日が穏かに終り、明日が又いい日でありますよう。



お知らせコーナー

今後の「修太個展」予定

- '03 7/16～7/22 日・神戸阪急
- '03 9/10～9/16 日・京都大丸
- '03 11/18～11/24 日・仙台三越



編集後記

今年も福岡での「修太展」が近づいてきた。長いようで、短い会期を、無事終了できた後の「ぼんじゅーる修太博多」会の皆さんとの懇談会はいつも「めでた祝い唄」でめくられる。も～これは「鳥肌もん」博多男衆！のナントも言えないトランス状態の唄いっぷりに、ゾクゾク！う～ん伝統と文化の“粹”！それとも集まった男衆が持つて生まれた“色気”？。一発の手締め後は、「もう、ごちゃごちゃせんと、サッと帰ると！」その後姿に「山笠」祭の締こみ姿が目に見えただけでしょうか・・・！